

環状盛土と計画的な村づくり

国史跡 井野長割遺跡



見学上の注意

井野小学校内に立ち入る際には
学校の承諾を得てください。



井野長割遺跡へのアクセス

佐倉市西ユーカリが丘5丁目18番地1（井野小学校隣）、
3丁目1番地7（井野小学校内）
●京成線「ユーカリが丘駅」・「志津駅」下車、徒歩約25分
※現地に駐車場はありません。



井野長割遺跡 史跡指定範囲

遺跡データ

発見年月 昭和44年10月
指定年月日 平成17年3月2日
指定面積 22,955.65㎡（うち井野小学校内2,555.29㎡）



香炉形土器

（昭和50年 M5出土）



異形台付土器

（昭和48年 大型竪穴建物出土 国立歴史民俗博物館所蔵）

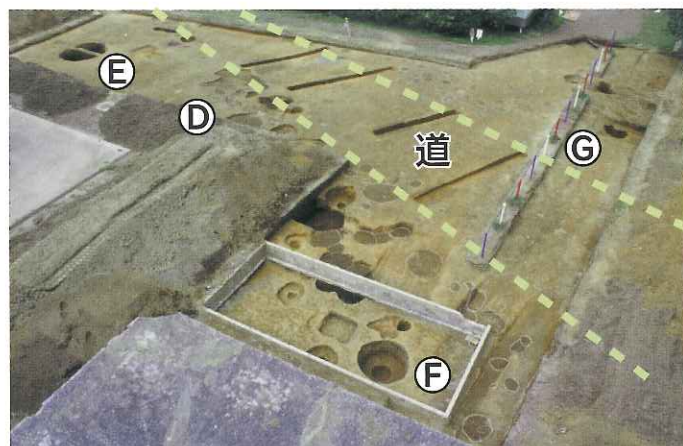


お問い合わせ

■佐倉市教育委員会文化課 〒285-8501 千葉県佐倉市海隣寺町97
TEL 043-484-6191・6192 FAX 043-486-9401 e-mail bunka@city.sakura.lg.jp URL <http://www.city.sakura.lg.jp>

2016.07

佐倉市教育委員会



井野長割遺跡は、昭和 44（1969）年 10 月、小学校建設のための造成工事中に発見された縄文時代後・晩期（約 4 千年～3 千年前）の村の跡です。

平成 13（2001）年の土地区画整理事業に伴う発掘調査では、小学校東隣の山林で「盛土」が確認されました。その後の発掘調査によって、環状にめぐる盛土に囲まれた広場（中央窪地）、貯蔵穴、竪穴式住居が、それぞれ特定の場所に配置されていることがわかりました。そこには、幾世代にもわたって守られ続けた計画的な村づくりのルールがありました。

そして、大型竪穴建物や多種多様な遺物は、この村が印旛地域の拠点であったことを物語っています。

縄文人が去ったこの地に、のちの時代の村が営まれることはありませんでした。それゆえ、縄文時代の純粋なタイムカプセルと言えます。

①環状盛土と広場（中央窪地）

盛土は、竪穴式住居や貯蔵穴を掘った土のほか、不用になったさまざまなものが長年にわたって積み上げられたものです。そこは単なるごみ捨て場ではなく、あらゆるものに感謝し、再生や豊穡を願う送り儀ざわいがおこなわれた聖なる空間でもありました。盛土は環状に分布するもの（M1・2・5～7）とその内側に分布するもの（M3・4）がありますが、最大比高差はM1で約 2 m です。学校敷地内の盛土のほとんどは失われてしまいましたが、当初の規模は南北約 160 m、東西約 110 m と推定されます。

広場（「中央窪地」）は、盛土に囲まれた空間で村の中心にあたります。ここには盛土のほかに目立った遺構が確認されていないことから、祭祀や日常のさまざまな作業をおこなう空間であったと考えられます。斜面や盛土に堆積する黄褐色土は、広場を削ったり、雨水で流出したりした土も含まれると考えられます。広場を削る行為には、単なる整地や清掃行為とは別に、場を浄める意味があったのかもしれませんが。そういう意味では、広場にある低い盛土（M3・4）は、祭祀的な性格をもつものかもしれません。

竪穴式住居は、広場を囲む盛土と重複する範囲に分布しています。

②谷の埋め立て

村に人が住み始めた頃、東側の斜面には今よりも深く谷が入り込んでいました。縄文人が長年にわたってこの谷を廃棄場として利用し続けることで、結果的に埋め立てられたとみられます。



土層断面を見ると、斜面の上の方にローム起源の黄褐色土が繰り返し捨てられた様子がわかります。黄褐色土の堆積は、最大 2 m と推定されます。

③子供の墓

南北にのびる道の脇に、台付鉢で蓋をした深鉢が埋められていました。深鉢は高さ約 23 cm、口径約 18 cm と小型であることから、胎児か乳児の遺体が納められていたと考えられます。



④大人の墓

東西にのびる道の脇に、直径 1 m ほどの穴が群集していました。副葬品とみられる蛇紋岩製の玉や浅鉢が出土しました。



⑤大型竪穴

村はずれに直径約 2.8 m、深さ 3.5 m 以上の穴がありました。炭化した棒状の木材のほか、底を意図的に割った注口土器が出土しました。



⑥貯蔵穴

東西にのびる道の脇に、どんぐりを貯蔵する円筒形の穴が群集していました。直径 1～2 m、深さは深いもので 1.7 m 以上のものがあります。



⑦深い柱穴

六角形に配置されたとみられる直径約 1 m、深さ約 1.6 m の大きな柱穴です。大型竪穴建物が掘立柱建物の柱穴と考えられます。

穴の中に、直径 30 cm ほどの柱材の痕跡が確認できました。



⑧貝塚

盛土や斜面に点在しています。貝はほとんどが汽水（淡水と海水が混ざる水質）産のヤマトシジミですが、海でとれるハマグリやオキアサリ、オキシジミなどもわずかに含まれています。

貝のほかに、コイ・フナ・ボラ・ウナギ・ハゼ・クロダイ等の魚骨、イノシシ・シカ・サル・ウサギ・タヌキ等の動物の骨、貝製の玉や針、貝刃（魚のウロコ取り）といった装飾品や道具類も出土しています。



⑨大型竪穴建物

盛土（M5）が形成される前、推定直径 10 m を超す建物跡がありました。床には炭化した敷物が残っていたほか、2 点の異形台付土器と呼ばれる祭祀用の土器が見つかりました。

